

財務レビュー

経営成績の概要

2025年3月期における太陽誘電を取り巻く経営環境については、世界景気は一部の地域において弱さが見られるものの持ち直しの動きが続きました。先行きについては回復の継続が期待されますが、関税措置を始めとする各国の通商政策や金融資本市場の変動、国際情勢などを注視する必要があります。

太陽誘電は、中期経営計画2025に掲げた目標の実現に向けて、自動車、情報インフラ・産業機器を中心とした注力すべき市場の売上比率を50%とすることを目指しています。更に、ハイエンド商品、高信頼性商品を中心とした高付加価値な電子部品を創出し、主力事業の積層セラミックコンデンサの更なる成長に加え、インダクタと通信用デバイスを強化してコア事業として確立していきます。また、需要拡大に対応するための継続的な能力増強に加え、環境対策やIT整備に向けた積極的な取り組みを実施しています。これらの結果、2025年3月期の連結売上高は、前期比5.8%増の3,414億38百万円となりました。

なお、2025年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル152.61円と前年同期の平均為替レートである1米ドル143.32円と比べ9.29円の円安となりました。

販売費及び一般管理費

2025年3月期の販売費及び一般管理費は、611億10百万円となり、前期に比べ47億34百万円増加しました。販売費及び一般管理費の主要な項目は、研究開発費150億42百万円、従業員給料手当147億95百万円などになります。

この結果、営業利益は前期比15.2%増の104億59百万円となりました。

営業外損益

2025年3月期の営業外収益は前期に比べ43億21百万円減少し、22億25百万円となりました。一方、営業外費用は支払利息の増加、為替差損の発生などにより、前期に比べ2億99百万円増加し、21億67百万円となりました。

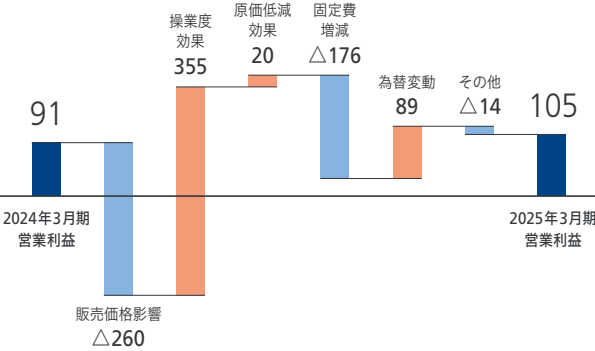
この結果、経常利益は前期比23.6%減の105億17百万円となりました。

特別損益

2025年3月期の特別利益は、投資有価証券売却益を計上したことなどで、前期に比べ3億27百万円増加し、5億98百万円となりました。特別損失は固定資産除売却損が減少する一方で、事業構造改善費用の計上や、子会社のエルナー株式会社にかかる独占禁止法関連損失の発生などにより、前期に比べ17億94百万円増加し、27億50百万円となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比72.0%減の23億28百万円となりました。

2025年3月期 営業利益増減要因
(億円)



財政状態の概況

資産

2025年3月期における総資産の残高は5,731億88百万円となり、前期末に比べ64億97百万円減少しました。

流動資産は179億35百万円減少しており、主な要因は、仕掛品の増加86億27百万円、原材料及び貯蔵品の増加11億89百万円、現金及び預金の減少246億16百万円、商品及び製品の減少21億25百万円です。また、固定資産は114億37百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加132億80百万円、投資その他の資産の減少19億43百万円です。

負債

2025年3月期末における負債の残高は2,540億17百万円となり、前期末に比べ44億30百万円増加しました。主な要因は、長期借入金の増加94億87百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加62億46百万円、未払金の減少79億77百万円、支払手形及び買掛金の減少25億87百万円、賞与引当金の減少10億26百万円です。

純資産

2025年3月期末における純資産の残高は3,191億71百万円となり、前期末に比べ109億27百万円減少しました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益23億28百万円と剰余金の配当112億21百万円による利益剰余金の減少88億92百万円、為替影響による為替換算調整勘定の減少15億69百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2025年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは339億41百万円の収入(前期比33.6%減)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益83億65百万円、減価償却費462億58百万円、棚卸資産の増加額90億39百万円、法人税等の支払額43億24百万円、仕入債務の減少額27億97百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは635億27百万円の支出(前期比23.3%減)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出627億15百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは30億48百万円の収入(前期比91.9%減)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入250億円、配当金の支払額112億3百万円、長期借入金の返済による支出92億65百万円、リース債務の返済による支出13億80百万円です。

以上の結果、2025年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して273億96百万円減少し、675億43百万円となりました。

2025年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金42億円、1年内返済予定の長期借入金155億2百万円、転換社債型新株予約権付社債509億91百万円、長期借入金937億7百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。更に、財務の安定性のため期間3年、300億円のコミットメントライン借入枠を設定していますが、2025年3月末現在未使用です。

太陽誘電は、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電の成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。

